

	実態と課題	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題や文章の意味を正しく理解できない。そのため、文の要約なども難しい。</li> <li>問題や文章を理解するための語彙が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語文では、登場人物の心情を読み取る具体的な手立てを示し、心情が分かる言葉にサイドラインを引いてから、考えさせるなど、スモールステップで学習を進める。</li> <li>説明文では、繰り返し出てくる言葉などに注目させることで、その段落が何を説明しているのか考えさせ、文意の理解を促すようにする。</li> <li>単元の始めに意味調べを行い、語彙の数を増やすとともに、その意味が理解できるようにする。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題や文章と資料を関係付けて読むことに困難を感じている児童が見受けられる。</li> <li>方位や地図記号など、基礎基本的な知識が定着していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習資料内の文章と写真を活用し、普段から資料を読み取る経験を増やしておくことで、文と資料を関係付けて読む力を育む。</li> <li>普段の学習の中で、短時間でも繰り返し確認したり指導したりすることで定着をめざす。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題や文章の意味を正しく理解した上で演算決定することが難しい。</li> <li>基礎基本的な計算（かけ算や筆算）などが十分に定着していない。</li> <li>コンパスの作図は、できる、できないの個人差がかなりはっきりと出た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段の学習の中で鍵となる言葉に着目させ、演算決定をする一助とさせる。様々な文章問題に触れさせることで、今までの学習が応用できる力を付けさせていく。</li> <li>朝学習や家庭学習などの時間も活用しながら、繰り返し学習内容の定着に努める。</li> <li>コンパスを使う機会を増やすことで、コンパスの扱いに慣れるようにする。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識の定着ができていにもかかわらず、テストの答え方が分からずに誤答になってしまった児童がいた。</li> <li>結果をもとに考察をすることに慣れておらず、繰り返し取り組んでいくことの必要性を感じる。単元的にも、2学期からが本格的な指導となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テストの答え方も指導する必要がある。</li> <li>結果をもとに考察をする時間を十分にとる。児童同士で考察を共有したり、考察の仕方が上手な児童の考えを紹介したりしてクラス全体に広める。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞の内容を理解して歌おうとする意欲がある。正しい音程や発声の技能が追いついていない児童がいる。</li> <li>様々な楽器に十分に触れる活動がやや不足している。</li> <li>リコーダーへの興味関心が高く、良い音色で吹ける児童と、穴のふさぎ方や息の使い方が未熟で、自信のもてない児童との差が開きつつある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間の冒頭に、「今月の歌」を歌い、歌詞の理解や発声・呼吸法、情景にふさわしい表現の仕方を指導する。</li> <li>リコーダーや鍵盤ハーモニカ以外にも、木琴・鉄琴・キーボード・打楽器などに触れる活動を増やす。</li> <li>友達同士の教え合いや、個別指導の時間をできるだけ確保する。</li> </ul>
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>前学年までの経験を生かして、造形活動に積極的に取り組む児童が多い。特に工作に興味関心がある児童が増えた。</li> <li>自分のイメージはもてるが、既存のデザインにとらわれたり、用具の扱いが十分でない児童もいる</li> <li>友達や自分の作品のよさを積極的に伝えられる児童が多いが、うまく文章や言葉で表現できない児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前学年までの経験が視覚的に分かる掲示物や、ポートフォリオとなる作品ファイルを活用し、今までの学習内容が次の制作活動に活用できるよう援助する。</li> <li>児童の実態に合わせてながら用具の取り扱いについて個別に指導する。また Google クラウドを使って作品例を紹介するなど視覚的なアプローチを多くとる。</li> <li>制作途中に鑑賞を取り入れ、よさを具体的に伝えたり、自分の作品に生かしたりしながら、伝え方を学ぶ機会を多くとる。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>ここ数年、運動に取り組む機会が減っているため、体力の低下、運動をよくする児童とそうでない児童の二極化がより進んでいる。</li> <li>全体的にルールを守って取り組もうとするが、個人のルールの理解度の違いや勝敗を受け入れられない児童もおり、ゲーム中にトラブルになることがある。</li> <li>多くの児童は体育の授業中はすすんで運動に取り組んでいるが、苦手意識が強く積極的でない児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>休み時間に使える遊び道具を充実させ、すすんで運動に取り組もうとする意欲を高める。</li> <li>チーム編成を工夫する。</li> <li>児童のよい動き、よい発言、よい考えは称賛する。また、振り返りの時間に紹介したり、掲示をしたりして、クラス全体に広める。</li> <li>運動に苦手意識がある児童に対しては各領域の内容に応じて配慮をする。</li> </ul>